

令和6年度

# 事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語



## 目 次

I. 法人の概要 .....	1
II. 事業の状況 .....	3
事業実施リスト .....	3
公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 .....	6
公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業 .....	8
公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 .....	10
公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 .....	13
収益事業（受託事業） .....	16
パブリシティ（新聞ほか掲載記事） .....	20

# Ⅰ. 法人の概要

(令和7年3月31日現在)

法人の名称	公益財団法人吉野川紀の川源流物語
設立年月日	平成14年4月1日 平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立
定款に定める目的	この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要なとなる拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的とする。
定款に定める事業内容	この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 ① 「吉野川源流－水源地の森」体験学習プログラムの提供 ② 森づくり体験学習プログラムの提供 ③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援 ④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成 (2) 流域交流・啓発にかかわる事業 ① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施 ② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成 (3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 ① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施 ② 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施 ③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施 (4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 ① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営 ② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに付随する施設の管理 (5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売 (6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技術によって対応可能な業務の受託 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内で行う。
主たる事務所	〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 1374 番地の 1

<p>役員等</p>	<p>評議員（五十音順）</p> <p>伊藤 康裕（川上村住民課長）  浦西 勉（元龍谷大学教授）  新井 寿彦（川上村教育委員会教育次長）  塩谷 章次（川上村議会総務文教委員長）  杉本 吉美（和歌山県地域振興部地域政策局地域振興課長）  谷本 光司（一般社団法人 近畿建設協会理事長）  堤 健（橋本市上下水道部長）  栃岡 清人（大阪工業大学 学長室事務局長）  野田 純一（奈良県環境森林部長）  松本 博行（川上村議会議長）</p> <p>理事（代表理事・業務執行理事を除き五十音順）</p> <p>泉谷 隆夫 代表理事・理事長（川上村長）  森内 太 代表理事・副理事長（川上村副村長）  今福 和男 業務執行理事（川上村水源地課長）  市川 圭造（元和歌山市立教育研究所長）  上田 力也（元橋本市総合政策部長）  南地 哲也（奈良県環境森林部 水・大気環境課長）  西久保 智美（コミュニティーライター）  橋本 裕行（明治大学文学部兼任講師 橿原考古学研究所特別研究員）  前 浩輔（川上村立かわかみ源流学園校長）  松谷 圭子（吉野町おはなしらんどカンブリア代表）  宮口 侗廸（早稲田大学名誉教授）  横田 岳人（龍谷大学 先端理工学部 環境科学課程准教授）</p> <p>監事（五十音順）</p> <p>辰巳 八郎（川上村監査委員）  中島 誠（税理士）</p>
<p>主な会議</p>	<p>臨時理事会 4月26日（役員関係者との利益相反取引について）  事業・会計監査5月22日</p> <p>定例理事会 6月6日（前年度事業報告及び決算の件ほか）</p> <p>定時評議員会 6月27日（評議員選任の件、理事選任の件、監事の専任の件、前年度事業報告及び決算書類等の承認）</p> <p>臨時理事会 6月27日（代表理事、業務執行理事選定の件）</p> <p>臨時理事会 10月16日（評議員会招集の件）</p> <p>臨時評議員会 10月30日（理事選任の件）</p> <p>臨時理事会 10月30日（代表理事選定の件）</p> <p>定例理事会 3月21日（次年度事業計画及び収支予算書の件ほか）</p>

## II. 事業の状況

### 事業実施リスト

公益事業Ⅰ	環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業			
吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等のプログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
水源地の森ツアー(一般公募型)	6・10・3月	3回	48名	「水源地の森」での体験学習を実施。
団体(企業含む)研修等での利用	随時	23件	669名	「水源地の森」散策や森づくり体験等を実施。
環境教育支援(学校対応)	随時	82件	4,720名	小学校から大学の見学案内及び出張源流教室(オンラインを含む)を実施。
森と水の源流館 ESD 授業づくりセミナー	7・9・11・2月	5回	69名	近畿ESDコンソーシアムとの連携事業で教員のための授業計画づくり。実践報告会(2/8)を実施。
源流学の森づくり	10・11月	3回	47名	森林の維持管理作業の見学・体験を通じ計画的な森林育成が保全に役立つことを伝えた。
源流人会の運営	通年	-	個人 54 家族 17 団体 6	会員募集、管理。定期情報の発信。調査報告会の開催(2/1 40名参加)

注)「通年」事業で実施日や受入れ日などを定めることなく適宜対応しているものについては、回数や参加者数等を「-」と記載

公益事業Ⅱ	流域交流・啓発にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
源流のつどい (川上村「未来への風景づくり」)	5月	1回	10名	旧白屋地区の草刈り・外来種の駆除を行い、水源地域の環境保全にかかわる人材の交流を行った。
夏休みワークショップ	8月	1回	300名	村民のほか、施設・団体・個人による工作体験・観察会の実施や特産品販売の売店による交流催事を行った。
水源地の森守募金	通年	-	228,319円	令和6年度以降に設置予定の、防鹿柵の資材を購入した。
流域等各地へのPRキャラバン	随時	5回	-	橿原市昆虫館「虫まつり」、西日本産直協議会、剣道交流大会、和歌山市「和歌浦しらすまつり」など。
機関誌『ぼたり』発行	7・11・3月	3回	-	財団の動きや連携するキーパーソン紹介、各事業報告・調査レポートなどを掲載した機関紙を発行。

公益事業Ⅲ	源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域をはじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
吉野川紀の川しらべ隊	5月	2回	8名	参加者公募型の調査。人文系の調査と自然系の調査を行った。
村民と連携した自然調査	通年	—	—	村民主催の川上村自然観察研究会に協力し、自然観察会の講師、生物種の記録を行った。
村民と連携した人文調査	通年	—	—	昔の暮らしについてのヒアリング調査。秋祭りの一部再現などを行った。
流域連携によるフィールド調査	通年	—	—	流域の他団体と源流部および吉野川紀の川流域の自然実態調査、比較。
水源地の森自然調査 (ナラ枯れ被害調査)	6・7月	2回	4名	被害木の枯損状況、加害昆虫の系統を調査。
水源地の森下層植生調査	6・7月	2回	4名	ニホンジカによる食害を防ぐ防鹿柵を設置し、下層植生の回復状況を調査。
源流部における斜面崩壊地での対策実態調査	4～10月	6回	17名	ミズナラの集団枯死に伴う樹林環境の変化についてモニタリングを実施。
他機関との合同調査	通年	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水源地の森に生息する希少魚類の生息状況の調査(摂南大学)</li> <li>・奈良県レッドデータブック改訂に向けた検討作業(奈良県)</li> <li>・市史編纂に係る昆虫類調査(五條市)</li> </ul>

公益事業Ⅳ	拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業			
水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
「森と水の源流館」管理	通年	309日	利用者 11,171名	日常の維持・管理、運営、定期点検、清掃、補修。
「吉野川源流—水源地の森」管理	通年	54回	—	散策路周辺の見回り・点検、補修。 (入山者 451名)
「水源地の森交流施設」管理	通年	15回	—	水源地の森に付帯する休憩・管理施設の見回り・点検、補修。

<b>収益事業Ⅰ</b>	<b>ミュージアムショップ事業</b>
拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。	
概要	
オリジナル商品(副読本・絵本・ポストカード・楽曲CDなど)、地域の自然・歴史・文化・伝承を紹介した商品(書籍・地図など)、村内で生産された商品(「かわかみの水」・木工品など)、自然観察用品(野帳・ルーペなど)を販売している。夏休み・企画展などに合わせて、自然観察用品・書籍など関連商品の品揃えを行い、販売促進を図った。	

<b>収益事業Ⅱ</b>	<b>受託事業</b>		
他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受託し、実施する。			
受託事業名	委託者	契約期間	概要
和歌山市民の森管理業務委託	和歌山市	9/12～12/31	3haの二次林管理作業。
和歌山市民の森源流体験学習業務委託	和歌山市	9/12～12/31	10/13・19に和歌山市の公募による参加者に「水源地の森」散策等の学習会を開催。
啓発用間伐材割箸セット製作・配布	森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟	12月～3月	間伐材利用の割箸に教材となる啓発パッケージを添えて和歌山市内小学校4年生に配布。
水のつながりプロジェクト業務	川上村	5/7～2/28	田植え・稲刈り体験や源流散策など村と平野部との相互交流事業を支援。
令和6年度川上村公共塾ふるさと力編業務委託	川上村	5/1～3/20	水源地の村において地域を教材化した総合的な学習をコーディネート。
第5次川上村総合計画推進等支援業務	川上村	5/7～3/18	総合計画に位置付くコミュニティプラン、観光プラン等の推進を支援。
第5次川上村総合計画後期基本計画進捗管理支援等業務	川上村	5/7～3/18	総合計画進捗状況を把握、進捗管理報告書の作成を支援。
第6次川上村総合計画策定等支援業務	川上村	5/7～3/18	第6次川上村総合計画策定指針の作成を支援。
令和6年度「ダム後の10年その先へ」推進支援業務	川上村	5/7～3/18	前年度の大滝ダム10周年以降のモデル事業スタディの推進支援、会議等支援。
神之谷地内混交林誘導整備事業管理業務委託	川上村	12/20～3/17	混交林誘導整備事業で植栽した苗木の生育状況の確認と評価を支援。
原木から子実体への放射性物質の移行に関する検証事業	(株)都市環境研究所	10/10～3/21	検討委員会の運営、事業報告書の作成等を支援。
森林環境学習支援業務	顔の見える松阪の家づくり推進協議会	5/15～1/31	小学校教室等の木質化、森林環境学習を支援。
顔の見える松阪の家づくり推進協議会支援業務	顔の見える松阪の家づくり推進協議会	5/15～3/18	顔の見える松阪の家づくり推進協議会による取り組みを支援。
奈良県版レッドデータブック改訂事業に係る分科会活動	環境科学大阪(株)	7/11～3/29	奈良県版レッドデータブック改訂事業分科会への出席。

## 公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森ツアー」のほか、源流地域の自然や文化にふれる体験型ツアーを含めた研修の受け入れを行った。

【一般公募型 水源地の森ツアー】 6月・10月・3月に開催、48名が参加。



【団体・企業の研修等での利用】



国家公務員研修(6/20)



吉野川・紀の川流域協議会(3/22)

【環境教育支援(学校対応)】



奈良県立高田高等学校2年生(8/27)



田原本町立北小学校4年生(9/10)

**【森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟  
出前講座】**



和歌山市立有功東小学校(10/29)

**【森と水の源流館 ESD 授業づくりセミナー  
(近畿 ESD コンソーシアム)】**



ESD 授業づくりセミナー実践報告会  
(2/8 降雪のためオンライン開催)

**【源流学の森づくり】**



源流学の森づくり(11/24)



関西電力労働組合森林ボランティア(10/26)

**【源流人会の活動】**

水源地域の環境保全にかかわる人材育成。山村で培われた知恵、技を「源流学」として共有。



琵琶の滝ツアー(4/27)

村内のグループが実施したツアーにモニターとして参加。ツアー内容について助言を行った。



調査報告会(2/1)

## 公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

他の地域へ出での交流や、川上村の行事に出展するなど、可能な機会と手段で発信を行った。

### 【源流のつどい】

旧白屋地区での草刈りボランティアと同時に外来植物についての学習と駆除を実施。



未来への風景づくり草刈りボランティア(5/25)



外来種(ニワウルシ)の駆除(伐採)

### 【夏休みワークショップ】

村内外の施設・団体・個人に呼びかけ、「夏休み宿題おうえんワークショップ大集合」を開催。

工作体験・物販、観察などの出展をいただいた。(8/11)



会場風景



物販



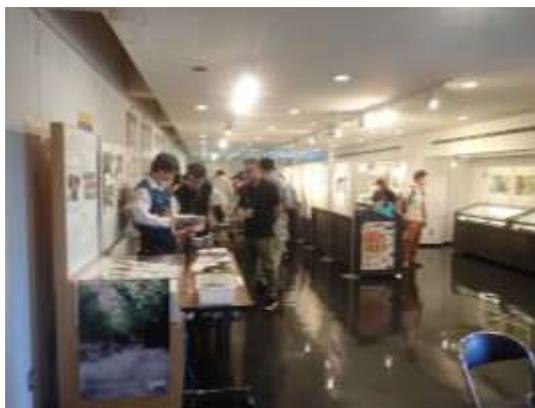
工作体験



タッチプール(和歌山県立自然博物館)

### 【流域連携・交流、啓発・PR】

関係人口の創出を目的に、川上村に流域の多くの主体に関心、関わりを持ってもらえるよう、他団体が主催するイベントに出展し、水源地の村づくりを発信した。



「虫まつり」(6/2 橿原市昆虫館)



「和歌浦しらすまつり」(11/3 和歌山市)

### 【機関誌『ぼた』No.60・61・62号発行】

夏・秋・春の定期発刊。源流人会会員、村内観光施設、村内図書館、国会図書館ほかへ配布。調査結果など事業活動報告を行うとともに、源流人会員や川上村民の活動紹介、流域の人の目線での川上村に対するおもしろいインタビュー記事をとおして、川上村・源流地域・水源地の村づくりなどの価値や役割を発信した。



## 公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

源流域の自然や歴史の調査・研究を継続するとともに、環境の実態把握と周知をねらいとして、流域をはじめ都市部の人々に協力を呼び掛けた参加型の調査も実施した。

### 【吉野川紀の川しらべ隊】

「川上村のうつり変わりをしらべよう」	
<b>調査内容</b> 収集した写真や資料についてのヒアリング	<b>実施期間、時期</b> 令和6年5月11日
<b>概要</b> 参加者を公募し2名が参加。 昨年に引き続き、川上村民俗調査において村民からお借りした写真・資料の整理、参加者が持参した資料の分析作業を実施	

「川上村の生きものをしらべよう」	
<b>調査内容</b> 川上村西河(蜻蛉の滝)の生物調査	<b>実施期間、時期</b> 令和6年5月19日
<b>概要</b> 参加者を公募し6名が参加。 生きものを調べることにより、川上村の生物多様性を伝える観察会を実施。他の参加型観察会の結果と比較した。	

### 【村民と連携した調査】

宮の平遊歩道の生きもの調査	
<b>調査内容</b> 大滝ダム周辺の利用活性を目的として、宮の平遊歩道で観察された生きものをまとめた観察マップを作成	<b>実施期間、時期</b> 令和6年4月～令和7年3月
<b>概要</b> 大滝ダムに設けられている「宮の平遊歩道」の森と水の源流館からホテル杉の湯の区間において、約20年間にわたり継続調査している生きものの観察記録をまとめ、その結果をもとにした観察マップを作成した。	

<b>川上村の生活・風習など民俗学的変貌調査</b>	
<b>調査内容</b> 収集した写真をもとにした聞き取り調査など	<b>実施期間、時期</b> 令和6年4月～令和7年3月
<b>概要</b> 川上村民俗調査において村民からお借りした写真をもとに聞き取り調査を実施したほか、川上村林業資料館所蔵の民具(現在、源流分校に収蔵)の確認、井光地区で秋祭りの一部再現(千本搦ぎ)を行った。なお、井光地区の調査は、京都大学(地域林業聞取実習)との共同調査として実施した。	 <p>井光地区での調査(10/10)</p>

### 【流域連携によるフィールド調査】

<b>吉野川紀の川流域の生きもの調査</b>	
<b>調査内容</b> 吉野川・紀の川流域及び大和川源流域の昆虫相比較	<b>実施期間、時期</b> 令和6年4月～令和7年3月
<b>概要</b> 川上村内及び、「山野草の里」(奈良県桜井市)での観察会、和歌山県立自然博物館との紀の川流域合同調査等で確認した昆虫類から、その地域の特徴をつかむ調査を実施した。調査結果は奈良県版レッドデータブック改訂委員会へフィードバックし、吉野川・紀の川の水が育む生物多様性を示した。	 <p>和歌山県初採集となるホンサナエの成虫</p>

### 【水源地の森自然環境調査】

<b>水源地の森下層植生調査・ナラ枯れ被害状況調査</b>	
<b>調査内容</b> 「吉野川源流-水源地の森」内の下層植生を調査	<b>実施期間、時期</b> 令和6年6月～7月
<b>概要</b> 平成18年度より継続しているモニタリング調査。「水源地の森」内に設置した防鹿柵内外における下層植生を比較し、ニホンジカの食害による影響と、防鹿柵内の植生の回復状況について調査した。防鹿柵内の植生が安定しているため、本年度からは年1回の植生調査に変更している。	

### 【斜面崩壊地の対策実態調査】

川上村内の自然環境調査	
<b>調査内容</b> 防鹿柵設置による樹林更新調査	<b>実施期間、時期</b> 令和6年4月～令和7年2月
<b>概要</b> 「水源地の森」で発生したナラ枯れ蔓延によるミズナラの集団枯死後の早期樹林更新(概ね5年を目標)状況観察のため、水源地の森下層植生調査で得られた植生の回復傾向の結果を参考に、「水源地の森」の保全目的に則った移動式立体構造型防鹿柵を設置した。 事業費には「水源地の森守募金」を活用した。	

### 【他機関との合同調査】

水源地の森魚類調査	
<b>調査内容</b> カジカ大卵型生息状況調査	<b>実施期間、時期</b> 令和6年5月～令和7年3月
<b>概要</b> 川上村漁業協同組合、和歌山県立自然博物館の協力のもと、摂南大学と合同で希少魚類カジカ大卵型の生息状況調査を実施した。 生息状況ならびに個体群保護の情報は、摂南大学の卒業論文として取りまとめられ、調査の成果品として寄贈を受けた。	

## 公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

### 【「森と水の源流館」の管理】

指定管理協定にもとづく年間の施設の維持管理・運営管理。

### 【企画展示「歴史の証人～手を入れつづける森～」(10/31～2/2)】

世界最古級の人工林「歴史の証人」をテーマとした企画展示を実施した。何世代にもわたり手を入れつづけてきた森の「空間」・紡いできた「時間」・その「価値」を体感できるよう工夫し、吉野林業発祥の地が育ててきた人工林を使い続けることの大切さを、展示を通じて発信した。

「歴史の証人」の空間を「源流の森シアター」に再現し、かわかみ源流学園への活用に向け伐採した「歴史の証人」の伐採時の映像を上映。林業で栄えた昔の山村の暮らしの再現や、かわかみ源流学園建設に使用した木材に触れ、質感・香りを体感するコーナーを設けた。



### 【ミニ展示・トピックス展示】

7回実施。職員による展示のほか、「紀の川水系における自然環境調査等に係る相互協力」を締結した和歌山県立自然博物館の協力によるミニ展示(海洋生物・爬虫類・魚類)を行った。

トピックス展示では、かわかみ源流学園児童が発見した希少菌類を展示した。



	ミニ展示・トピックス展示	期間
1	「川上村の村花「ヤマブキ」と森と水の源流館シンボルツリー「ブナ」	4/11～5/31
2	「川上村の溪流沿いのコケ植物」	6/6～7/30
3	「虫だらけ」	8/1～9/30
4	和歌山県立自然博物館 シリーズ展示①「チリメンモンスター」	10/18～1/7
5	和歌山県立自然博物館 シリーズ展示②「紀伊半島のへびたち」	1/17～2/11
6	和歌山県立自然博物館 シリーズ展示③「バタコとゴリ」	2/17～3/31
7	トピックス展示「小学生が見つけた幻の珍菌 アカイカタケ」	1/17～3/31

### 【階段ギャラリー展示ほか】

「交流広場」にて村民の源流人会会員が中心に活動している「川上村自然観察研究会」の活動報告を展示した。

「階段ギャラリー」を活用し、時事に合わせた展示を行った。



川上村自然観察研究会の活動報告展示



階段ギャラリー展示(「カメムシのヒ・ミ・ツ」)

	階段ギャラリー展示	期間
1	水彩で描く川の表情～須田泰一朗水彩画展	4/1～5/6
2	「カメムシのヒ・ミ・ツ」	6/12～7/30
3	「昆虫の豆知識カード」	8/2～10/1
4	「巳年のみになる話」	1/4～3/28

### 【森と水の源流館元館長 辻谷達雄さんお別れの会】

8月8日に逝去された辻谷さんのお別れの会を源流の森シアター他を使って実施。辻谷さんの功績とともに、自然への畏敬の念を大切にしてきたメッセージをあらためて来館者とともに共有した。ふりかえり映像や愛用の道具なども展示。116人が参列した。



### 【森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟 森と水の源流館入館料補助事業】

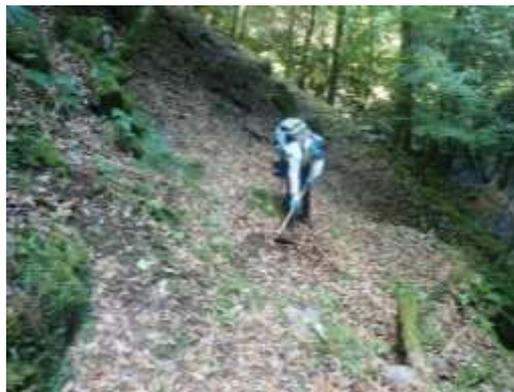
和歌山市から水源地を訪れる機会をより多く創出することを目的として、夏休み期間中、和歌山市内の小・中学校に在学の子どもと、同伴の家族、グループの入館を無料にするキャンペーンを同議員連盟が主催。市広報やミニコミ誌で告知したところ、期間中に18人の小・中学生、16人の一般での来館があり、入館料は同議員連盟によって負担された。

## 「吉野川源流－水源地の森」・「水源地の森交流施設」の管理

「水源地の森」及び休憩小屋・管理棟の定期的な見回り・点検・清掃・修繕を実施した。



木橋の修理



散策道の修繕

## 収益事業（受託事業）

### 【和歌山市民の森管理業務・源流体験学習業務】(和歌山市)

川上村と「水源地保護に関する協定」を結ぶ和歌山市から、川上村の伐採後の天然林の二次林 3ha の管理を受託。年 2 回、和歌山市民による源流体験会を開催している。



和歌山市民の森管理業務完了確認



源流体験学習会(10/19・26)

### 【啓発用間伐材割箸セット製作】(森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟)

間伐材を利用した割箸(5膳)を教材となる啓発メッセージ入パッケージにして、和歌山市内の市立及び国立学校法人の小学校 53 校の 4 年生に配布した。



### 【水のつながりプロジェクト業務】(川上村)

大和平野土地改良区と川上村が共催する吉野川分水受益地と水源地域の交流事業。橿原市立鴨公小学校と川上村立かわかみ源流学園がそれぞれの地域で体験を行い、吉野川分水によるつながりの共感につなげた。



稲刈り体験(10/17)(橿原市内)



源流体験(9/20)

### 【令和6年度川上村公共塾ふるさと力編業務委託】(川上村)

「かわかみ源流学園」において、児童・生徒たちが、ふるさとを愛する心を持ち、水源地の村づくりを理解し、郷土に誇りと自信を持った次代を担うに相応しい人材を育むことをめざし、全学年での「総合的な学習の時間」のサポートを行った。



オリエンテーション(説明会)(12/12)



川上さぶり・製材現場を見学(12/10)

### 【第5次川上村総合計画推進等支援業務】(川上村)

「都市にはない豊かな暮らし」の実感につながるよう、第5次川上村総合計画の推進にあたり、地域資源の掘り起こしや記録、活用の方の検討、及び柿の葉寿司の文化継承、販売促進等を目的とした担い手育成講座の実施などの支援を行った。



柿の葉寿司づくり担い手育成講座(6~7月)



地域資源活用の検討・下多古(6~7月)

### 【令和6年度「ダム後の10年その先へ」推進支援業務】(川上村)

昨年の大滝ダム10周年記念事業が一過的に終わらないよう、「ダム後の村づくり」を川上村が持続的に進められるよう、モデルとなる取組み(「おおたき龍神湖の湖面利用促進」や「未来への風景づくりの発展」など)を民間企業・団体や大学、住民等と連携して実施する支援を行った。



未来への風景づくり活動支援(9/28)



民間企業力の活用(パークPFI事例視察)

### 【神之谷地内混交林誘導整備事業管理業務委託】(川上村)

川上村が進めている神之谷地内混交林誘導整備事業管理業務の委託を受け、神之谷地内の人工林区画において、混交林誘導に係る伐採跡地に植栽した稚樹と実生について、生育並びに定着状況のモニタリング調査を行い、今後の管理手法について考察を行った。



モニタリング調査(2/13)

### 【森林環境学習支援業務】(顔の見える松阪の家づくり推進協議会)

榎田川流域に位置する三重県松阪市においては、森林を守り林業・木材関連産業を活性化することを目的として「顔の見える松阪の家づくり推進協議会」が設置されている。この協議会が松阪市とともに取り組む、市内小学校を対象とした森林環境学習の取り組みの支援を行った。



森林環境学習のようす(10/1)



壁面の一部を木質化した小学校

### 【顔の見える松阪の家づくり推進協議会支援業務】(顔の見える松阪の家づくり推進協議会)

「顔の見える松阪の家づくり推進協議会」による、地域材利用促進に向けた、内装材等木質化支援制度の構築及び、制度の運用・啓発にあたり支援を行った。



木質化補助金を活用した住宅(お施主と)



木質化補助金を活用した住宅(内観)

パブリシティ（新聞ほか掲載記事）

## 空き缶でゴミ箱 平城小生が作製

川上で展示

奈良市立平城小の5年生児童約90人が、近くの秋篠川で拾い集めた空き缶やペットボトルをあしらった3個のゴミ箱を作り、川上村の「森と水の源流館」で展示している。写真。7日まで。

へこんだ空き缶、ペットボトル、プラスチック片などを、高さ25センチほどのゴミ箱の周囲に紙粘土で貼り付けて飾り、色とりどりの絵



の具で着色した。

4年生だった昨年、授業で秋篠川を調べ、ゴミの目立つ川が昔は泳げるほどきれいだったと地元のお年寄りから聞いた。昨秋、遠足で村を訪れて環境の違いを知り、「川を汚さないで」との願いを込めてゴミで作るゴミ箱を発案。全員で少しずつ手を加えて作った。

授業で講師を務めた館職員の古山曉さん(43)は「子どもたちが川を大切に思ってくれてうれしい」と話している。入館料は一般400円、小中学生200円。問い合わせは源流館(0746・52・0888)。

## 川上の豊かな自然 手作り展示で紹介

「森と水の源流館」職員が企画

昨年12月に下北山村で起きた土砂崩れの影響で県南部を訪れる観光客の減少が懸念されている中、川上村の自然に興味をもってもらおうと、同村の「森と水の源流館」で職員手作りのミニ展示「川上村の花／森と水の源流館のシンボルツリー」が開かれている。31日まで。

同展では、村の花、ヤマブキと水源地の森から同館前に植栽したブナに着目。平安時代に兼明親王が和歌に詠んだ八重のヤ



ブナとヤマブキに関する展示を担当した木村全邦さん。川上村の「森と水の源流館」

マップキと4月～5月にかけて村の道路わきなどで咲く野生種のヤマブキ、紀伊半島が最南端の自生地とされるブナと秋田県北西部から青森県南西部にまたがる臼神山地のブナの標本やパネルをそれぞれ展示し、比べてもらう。

同館によると、昨年12月に下北山村で土砂崩れが起きて国道が通行止めとなった影響を受け、川上村でも客足が鈍っているという。そうした中、自然豊かな村の魅力を発信したいと、同館の職員らが月替わりで開催するコーナー展示を企画することになった。

トップバッターとして今回の展示を担当した企画調査班の木村全邦さんは「展示を通して山深い紀伊半島の自然の豊かさや、他の地域の自然との違いを感じてほしい」と話す。今後は村の発展を支えた林業や、民俗、昆虫など、7人の職員でそれぞれ得意分野を披露する予定だ。水曜定休。午前9時～午後5時（入館は午後4時半）。入館料は大人400円、小中学生200円。問い合わせは同館(0746・52・0888)。

# 森と水の源流館(川上村)

# 見聞録

## アユ泳ぎ 森の大ジオラマ

川上村の「森と水の源流館」は、古里の自然を守るための大切さを次世代を担う若い人たちに伝えるため、2002年4月29日(当時ほみどりの日)にオープンした。23年度には総務省が、地域をより良くするために取り組む個人や団体などを表彰する「ふるさとづくり大賞」を受賞。受賞を励みにして職員たちは、森・川・里など自然と人々の営みとのつながりを子どもたちに学んでもらう取り組みにさらに力を入れている。【山中尚登】

### 自然守る心 次世代に



子どもたちに森と水を守る大切さを伝え続けている「森と水の源流館」



本物のブナやシカの剥製などを展示している「源流の森ジオラマ」=いずれも川上村で

アユの稚魚など、吉野川と紀の川の流域の生き物を展示している水槽



①吉野川の流しを再現した模型  
②江戸時代の川上村の暮らしを再現した「天明の家」

村が建設し、公益財団法人△吉野川紀の川源流博物館が管理運営をしている。オープン以来、県内外の小中学生を中心に23年度までに約8万人が来館した。鉄筋コンクリート3階建て。屋根

は、上から見ると葉っぱの形をしている。外壁にスギが使われるなど、自然と触れあえる施設として親しまれているため工夫を凝らしている。

2階の入り口から入館すると、すぐに目に飛び込んでくるのは大きな水槽。吉野川や紀の川に生息するコイやアユ、アマゴなどを展示している。上流



◇森と水の源流館 川上村宮の平(0746-52-0000)。午前9時〜午後5時(入館は午後4時半まで)。水曜と12月28日〜1月3日休館。高校生以上400円。小中学生200円。駐車場は20台。

川上村は1996年に全国に向け、「川上宣言」を掲げている。「かけがえない水がつかれる場」に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します」と記されている。源流館の古山隆一企画調査主事(43)は「林業で栄えた村の歴史(4)も、森や水など自然を守るための意味を次世代に伝えるべき」と話している。

このほか、館内には林業が盛んだったころの機織りの模型や、江戸時代の村の生活を知ってもらうための、民家の様子や生活道具を並べた「天明の家」も見てほしい。どの展示も子どもも大人も楽しめる。

中流、下流まで広がってミズノオウがある。中流域の水櫃では今年からアユの稚魚を育てている。稚魚にしたのは、何度も源流館へ足を運んでもらい、アユの成長と生体について詳しく知ってもらうためだという。特に驚かされるのは、森を再現した「源流の森ジオラマ」。実物の巨大なトチノキやトガサワラ、ブナなど樹木のほか、森に生息するニホンシカ、ツキノワグマ、ヤマドリなどの剥製が飾られている。剥製は今にも動き出しそうで、巨木も目の前にそびえ立っていて迫力がある。同じフロアに5面大型マルチスクリーンを設置しており、四季を通じて変化する森や川の美しさを映し出す。

# あの臭い何のため？

## 森と水の源流館 カメムシ企画展

来月30日まで

**川上** 今年、全国で大量発生して問題になっているカメムシを取り上げた企画展「カメムシのヒ・ミ・ツ」が、森と水の源流館（川上村宮の平）で開かれている。7月30日まで。

昆虫などの生態に詳しい同館の古山暎・企画調査班主任が立案。同館の2、3階を結ぶ北階段にある「葉

っぱギャラリー」に計9枚のカラーパネルと標本も展示している。臭いが出る体の部位や、臭いの役割などについて、簡潔に分かりやすく紹介。カメムシに触れてしまい、臭いが取れない時の対処方法も解説している。

古山主任によると、カメムシが臭いを発するのは、天敵から身を

守るためだ。このため、臭いは強烈で、意外なことにカメムシ自身も

古山主任は「カメムシがなぜ、強烈な臭いを放つのか知ってほしい。特に子どもたちに興味を持ってもらい、夏休みなどの自由研究の題材にもらえればうれしい」と話している。

同館では、同じく7月30日まで、3階の展示室でわがまま展示「川上村の栗谷のコケ」も開催中。詳しいスタ

ることを周りの仲間たちと知らせており、相互に意思疎通を図れる社会的な生き物という。

金プラ・ロレックス・LV

### わきもと 質店

奈良県桜井市桜井1006



カメムシがなぜ臭いのかを紹介する「カメムシのヒ・ミ・ツ」企画展示＝川上村の森と水の源流館で

ツが標本や写真パネルでコケの面白さを紹介している。

開館は午前9時～午後5時。水曜休館。入

館料は高校生以上400円。小中学生200円。問い合わせは同館（0746・52・0888）へ。【山中尚登】

# カメムシ 自由研究に

## 川上でパネル展示 臭いの役割解説



カメムシの臭いは「仲間との連絡手段」などと書いたパネルを示す古山さん（川上村で）

各地で大量発生が問題となっているカメムシについてのパネル展示「カメムシのヒ・ミ・ツ」が、川上村の森と水の源流館で開かれている。30日まで。

夏休みの自由研究のヒントに、と企画。昆虫が専門の館職員・古山暎さん（49）が、同館の階段壁に、9枚のカラーパネルを並べ、ツヤアオカメムシ（体長2センチ）の標本を貼り付けた。

パネルは、人間が不快に感じる臭いは「仲間と危険を知らせる」役割があるなどと解説。密閉空間では、自らの臭いで気絶することもあるという。また、カメムシは「ハッカと唐辛子が嫌い」だという。

古山さんは「カメムシが出す液には油分があり、取れにくい。自由研究のヒントになれば」と呼びかける。

コケについての展示も同時開催。入館料は一般400円、小中学生200円。問い合わせは同館（0746・52・0888）。

# カメムシの臭いに接近

県内でも今夏大量発生のおそれがあるとされるカメムシ。あの特有の臭いを出す理由や仕組みを、親しみやすく紹介するミニ展示「カメムシのヒ・ミ・ツ」が、川上村宮の平の「森と水の源流館」で開催されている。(上田真美)



カメムシの臭いについて親しみやすく紹介した展示パネル  
川上村宮の平

## ワケと仕組みミニ展示

### 川上・「森と水の源流館」

同館職員で昆虫の生態学が専門の古山晴さんが企画した。カメムシが臭いを出す複数の理由や、臭いの成分が含まれた液体を分泌する部分などを、階段の壁に掲示した9枚のパネルで説明している。

カメムシに親しみを持ってもらおうと、自宅で捕まえた体長20センチほどのツヤアオカメムシの個体を大きく拡大した写真を使い、「食べんといてや〜」といったヤツ居るで!」と関西弁の吹き出し



村や東南アジアで採取されたコケを  
紹介するコーナー

しを添えた。古山さんは「よく見るとわりとかわいいです。知らんけど」。

そのカメムシが嫌って避ける臭いを紹介し、自由研究のヒントを書いたパネルもある。古山さんは「カメムシを通じて、生き物の臭いや声、行動

### コケ愛あふれるコーナーも

「スタッフによるわがまま展示」と題し、村内で採取した珍しいコケを

に「ふうしてそうになってるのだから?」と興味を持ち、考えるきっかけになればうれしいです」と話す。

ちなみに、人間以外の動物にとってもあれはイヤな臭いなのか?と尋ねると、「ベットのハリネズミが食べた時は、手で鼻を何度もこすっていた。哺乳類にはイヤな臭いだと思います」。

息する。村内の溪谷では、木から垂れ下がるコケが多数生えており、屋久島(鹿児島県)に似た光景が見られるという。

ケースには、コケ植物の分類が専門の木村金邦さんが村内で採取したコケや、村内でも同じ種類が見られる東南アジアのコケを並べた。排ガス濃度とコケの種類の関係なども紹介している。

いずれも今月30日まで展示。開館時間は午前9時〜午後5時(水曜休館)。入館料は高校生以上400円、小中学生200円。

### 直径3センチスギ切り株再現へ 牛乳パック募集中

森と水の源流館では、村内の森にある直径約3センチのスギの切り株を館内で再現するため、材料となる牛乳パックの提供を求めている。

切り株は、「歴史の証人」とも呼ばれる下多古村有林の中にある。江戸初期に植林され、全国でも最古級の人工林とされる。11月からこの人工林をテーマ

6・52・0888)へ。

### 水家の夏休み2024

(森と水の清流館) 編

「水の川じりしるし」のESD、のテーマソング

## 水の旅のはなし

詞：城上直久 曲：池田又英  
(森と水の清流館)



おどろい・し・い・ね この水は  
こからやってくるのか？  
すい場 ダムにたもた  
れもあるからとな  
でも は・て・な

水はどこから はじまるの？  
それは 山の向こう  
すいげんの森から  
おち葉や橋つちのおかげで  
小さな生き物たちがやがて生まれる  
雨をたくわえてき ばじめての一  
いのちの森から 川がはじまる

お・い・し・い・ね このお水  
どうしてつくっているのかな？  
農家さんで心をめて  
農家でてるから できるんだ  
でも は・て・な  
水がなければどうなるの？  
むかがなくて ない雨  
むかかなくて ない雨  
むかかなくて ない雨  
よしのがわぶんの森から  
川の水がたどった  
川の水がたどった  
川の水がたどった

大漁だ！  
お魚も  
どうしてとれなくなるの？  
漁師さん 海をあいして  
とっているから つづくんだ  
でも は・て・な  
潮にも川がそいである！  
とおい 森から 田んぼ敷いた  
手と力たくわえながら  
やがて海へと つながってゆく  
ゆたかな海へと つながってゆく  
ゆたかな森と

川上村は、自然と一体となった産業を営んでお水を守り、暮らしにほいほい豊かな生活を営んでいます。

川上村では、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の恵みに触れたいと思ってもらえようとの願いがこめられています。

川上村では、これから増える子どもたちや、自然の恵みに感謝する方に感謝できるような環境をつくります。

川上村では、川上にある自然の恵みをつぎつぎと、あつたててお水を大切にする人達の願いがこめられています。



吉野川 - 紀の川源流「水源地の森」

# 水の日

水の日特集 Vol.1

### 川上宣言

川上村は、自然と一体となった産業を営んでお水を守り、暮らしにほいほい豊かな生活を営んでいます。

- 水** 川上村では、自然と一体となった産業を営んでお水を守り、暮らしにほいほい豊かな生活を営んでいます。
- 産業** 川上村では、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の恵みに触れたいと思ってもらえようとの願いがこめられています。
- 仕組み** 川上村では、これから増える子どもたちや、自然の恵みに感謝する方に感謝できるような環境をつくります。
- 子ども** 川上村では、川上にある自然の恵みをつぎつぎと、あつたててお水を大切にする人達の願いがこめられています。
- 環境** 川上村では、川上にある自然の恵みをつぎつぎと、あつたててお水を大切にする人達の願いがこめられています。

### 川上村について

川上村は、自然と一体となった産業を営んでお水を守り、暮らしにほいほい豊かな生活を営んでいます。川上村では、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の恵みに触れたいと思ってもらえようとの願いがこめられています。川上村では、これから増える子どもたちや、自然の恵みに感謝する方に感謝できるような環境をつくります。川上村では、川上にある自然の恵みをつぎつぎと、あつたててお水を大切にする人達の願いがこめられています。



川上村は、自然と一体となった産業を営んでお水を守り、暮らしにほいほい豊かな生活を営んでいます。川上村では、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の恵みに触れたいと思ってもらえようとの願いがこめられています。川上村では、これから増える子どもたちや、自然の恵みに感謝する方に感謝できるような環境をつくります。川上村では、川上にある自然の恵みをつぎつぎと、あつたててお水を大切にする人達の願いがこめられています。

山と水を守り、未来へとつなげるために  
いっしょに！

奈良県吉野郡  
川上村では、河川敷や山林周辺において

# しないでください！

①火気の使用  
②ゴミの放置  
③水をよごす行為

奈良県川上村 電話 0746-52-011 | <https://www.vill.kawakami.nara.jp/>  
一般財団法人かわかみ清流ツーリズム 公益財団法人吉野川紀の川源流物語

笠山荒神社は7月・4月・9月のそれぞれ28日に  
大祭が行われます。お祭りのあとそば屋へ戻りお籠り下さる。

打たてそば  
北のそば  
うまいそばがある

(前荒神の里・笠そば) 〒633-0133 奈良県吉野郡笠山町 0746-43-5400 0746-43-0401

奈良県漁業協同組合連合会

山は川を育み、川は海を育む  
山・川・海の自然の恵みを未来に～

～奈良県のさかな～

〒630-0114 奈良市定比呂5-10  
(奈良県自由丘支部内)  
TEL 0742-32-1410  
FAX 0742-37-7735

地元で愛され続けて40年

はじまりの  
流ります

山の幸だけじゃ  
美味い海の幸を  
どうぞ!!

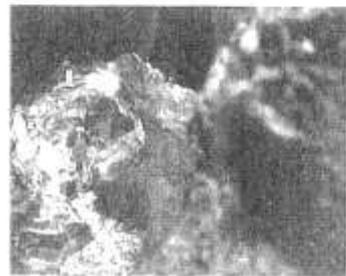
喫茶・お食事 里  
奈良県吉野郡川上町572-1  
☎0746-32-8658



100年に及ぶ断崖絶壁「大蛇窟（だいじゃくぐら）」。正面に雄大な大峰山系が広がる



まで約270キロ。朝日に、そのシトが浮かんだ（日出ヶ岳から）



精巧なジオラマと大型スクリーンの映像で水源地の森が体験できる（奈良県川上村の「森と水の源流館」で）



大台ヶ原へ至る吉野川流域の道行きを、深田久弥は丁寧に綴っている。その昔、谷崎潤一郎がたどり、小説「吉野葛」を書いた道筋に重なり、旧跡や手つかずの自然が満喫できる。

宮滝遺跡（奈良県吉野町）は万葉集などに登場する吉野宮の跡と想定される。国史跡で周りに天武天皇や柿本人麻呂ら、ゆかりの人の歌碑が立ち、近くの吉野歴史資料館では縄文土器や離宮の



楕型が見学可能だ。資料館の中東洋行さん(37)によると、川沿いで東西23・7段、南北9・6段に及ぶ建物跡が発掘された。この一帯が史跡公園に整備されるといふ。

少し上流で川は急に狭まり、奇岩怪岩が屏風状に切り立っていた。

## 旧跡手つかずの自然満喫

「吉野葛の主人公、つまり谷崎が座った岩場は多分この辺りかも」と中東さん。明らかな景勝地は貞原益軒も「和州巡覧記」で紹介している。

深田が乗ったバスの終端、入之谷は吉野川の最上流に近い奈良県川上村の集落だ。村はこの奥の天然林約740ヘクタールを購し、水源を守りながら

「源流」をキーワードにして村おこしに取り組んできた。その一つ、森と水の源流館で水源地の森を再現したジオラマを見た。トチノキやトガサワラ、フナなど、10以上の巨木は森から運んだそう。

一滴の水は奈良、和歌山の11市町村を経て紀の川の名で海へと注ぐ。流域で命を育む多彩な生物、村を支えた林業

の歴史など、様々な角度で水の大切さを学ぶことができ、「遠方からも小学生が見学に来ます」と事務局の高田裕市次長(56)は話す。

植物調査ツアーや魚釣り名人による溪流釣り教室等々、村の一般財団法人「かわかみ源流ツーリズム」は、多彩な体験プログラムを提供する。柿の葉寿司作りなど「村民がガイドを務め、参加者と交流を深めています」と事務局長の佐藤充さん(56)は語る。

水と空気に惹かれて、村に移住する人もいるらしい。

# カメさん、おいで



川上の「森と水の源流館」

## 手に乗せ観察

「宿題おうえん」ワークショップ

## 間伐材で工作も

川上村迫の環境教育施設「宿題おうえん」もりみ「森と水の源流館」で11日、「夏休みワークショップ大

和歌山県立自然博物館のタッチプールでカメに触れる子どもら11日、川上村迫の森と水の源流館

集合」があり、自然や歴史に親しむ体験講座に子どもたちが参加した。

流域交流でつながりを広げる同館のネットワークで県内外から14の自然系グループが出展。和歌山県立自然博物館（海南市）のブースでは、職員の話聞きながらカメやカエルを手に乗せることもでき、子どもたちは首や手足の動きをじっくり観察していた。ほかに、フリースタイルフラワーなどで飾りつける流木アレンジメント（森のクラフト）や間伐材を使った工作（根来山げんきの森倶楽部）、青竹の食器作り（NPO山野草の里づくりの会）など多彩なワークショップが開かれた。

市立歴史に願う橿原市博物館の虹色拓本は古代瓦のレプリカの拓本を絵の具で完成させ作品に仕上げた。

## 親子で工作 宿題できた

### 川上飾りやおもち作り体験



初めて竹を切る体験をする子ども（川上村で）

夏休みの宿題の手助けになればと、川上村の森と水の源流館で11日、自然保護団体による工作体験などのブースが並ぶ「夏休みワークショップ大集合」があり、親子連れでにぎわった。

県内外の団体や博物館などが8ブースを構え、流木や木の実、草木を使ってアクセサリーや飾りを作る体験企画を実施した。

桜井市で里山保全活動を村特産の柿の葉ずしや野菜も販売され、参加者が土産に買い求めている。

する、山野草の里づくりの会は、切り出した竹でおもちを作るブースを展開。太さ6センチの真竹をのこぎり小さく切り、足に乗せて歩く「竹こっぽり」を作った橿原市の小学4年塩見晴輝君（10）は、竹は軟らかそうなのに、とても硬かった。疲れたけど、いい工作ができた」と汗を光らせた。



# アマゴつかみ取りに歓声

## 川上でトヨタソーシャルフェス

豊かな自然に親しみながら歩く  
参加者 24日 川上村 川



### 自然満喫、ごみ拾いも

環境保全の参加型イベント「トヨタソーシャルフェス2014」の奈良プログラム「アマゴが泳ぐきれいな水と豊かな自然を守り、大切な源流を未来へつなごう」(奈良新聞社主催、川上村など共催)は24日、川上村東川(うのがわ)であり、県内外から親子ら約150人が参加した。

地区公民館に集合した参加者は、アマゴ釣りなどができる中井溪谷自然塾ま

で、同村の環境教育施設「森と水の源流館」のスタ

ップと二種にごみを拾いながら歩いた後、アマゴのつかみ取りに歓声。地域の豊かな自然や歴史に親しんだ。

トヨタソーシャルフェスはトヨタ自動車の取り組みの一環で、2012年から全国で展開。川上村役場の今福和男・水源地課長は開会あいさつで「水のふるさとに関心を持ち、行動してくださる皆さんがいる限り、水は皆さんに届き、海まで流れていくでしょう」と継続的な取り組みに感謝。奈良市の小学5年杉本琴さん(11)は「源流がきれいに守られているおかげで私たちがおいしい水を飲める。村の自然や活動をもっと知りたい」と話した。環境保全活動に取り組む学生たちの団体参加もあった。

同村は吉野川の最上流部に位置し、きれいな水を下流に送り続ける「川上宣言」に基づき「水源地の村づくり」を進めている。川遊び客の放置ごみの問題など、参加者は課題を学び、環境意識を高めた。

R6.8.29 毎日新聞

コガネムシなど昆虫が飛び立つ様子を再現した標本—川上村の森と水の源流館で



### 飛び立つコガネムシ 「虫だらけ」展

昆虫の標本や採集時の体験談などを紹介する「虫だらけ」と「昆虫の豆知識カード」の展覧が川上村宮の平の「森と水の源流館」で開かれている。いずれも10月1日まで。

「虫だらけ」は解説パネル4枚と昆虫の実物標本約70点で構成。コガネムシが少しずつ羽を広げて飛び立つようになっている。

「虫だらけ」は解説パネル4枚と昆虫の実物標本約70点で構成。コガネムシが少しずつ羽を広げて飛び立つようになっている。

集時の体験談などを紹介する「虫だらけ」と「昆虫の豆知識カード」の展覧が川上村宮の平の「森と水の源流館」で開かれている。いずれも10月1日まで。

「虫だらけ」は解説パネル4枚と昆虫の実物標本約70点で構成。コガネムシが少しずつ羽を広げて飛び立つようになっている。

## 川上・「森と水の源流館」来月下旬から秋の企画展

集まった牛乳パックで、樹齢410年のスギの切り株の大きさを制作中の様子「川上村宮の平の「森と水の源流館」



川上村の自然史博物館「森と水の源流館」（同村宮の平）は、来月下旬から始まる秋の企画展「歴史の証人―手を入れつつける森―」で、1リットルの牛乳パックを使い、直径約2メートルの切り株を再現するなど、子どもたちが協力して作り上げる展示を目指している。切り株が再現できる1500個ほどの牛乳パックは集まったが、他の部分の制作のため、もう少し牛乳パックの提供を求めている。今月中旬までで、集まり次第受け付けを終了する。

# 牛乳パックで切り株作ろう

直径2メートル

### 子どもたち協力制作 1500個使い再現目指す

企画展では「スペシャル・サンクス」というコーナーを設け、希望により、制作や牛乳パック提供などの協力者の氏名を掲示する。問い合わせは同館まで、電話0746(52)0888。

いできた歴史を知ってもらおうと企画。このスギの切り株を再現し、他の村有林で伐採に適した樹齢80年から100年の木の大きさと比較できるような内容を検討している。

### 制作使用に提供募集

同村下多古地区には、400年以上も人が手を入れて守ってきた村有のスギやヒノキの人工林「歴史の証人」というエリアがある。吉野林業の村のシンボルとして、今春に開校した村立の義務教育学校「かわかみ源流学園」など校舎の一部に、このエリアから伐採した樹齢410年のスギ一本が使用されている。今回、この人工林の存在と、人がつむ

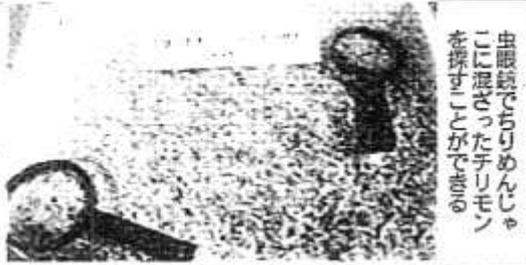


さまざまなチリメンモンスタ  
ーを紹介する展示—川上村

## チリメンモンスタ―探して

### 川上村・森と水の源流館

森と水の源流館（川上村）が和歌山県立自然博物館（同県海南市）の協力を



虫眼鏡でちりめんじゃこに混ざったチリメンモンスタ―を探している。来年1月7日まで

「ター（チリモン）」にスポットを当てた展示を開催している。来年1月7日まで

同村の吉野川（紀の川）源流にある原生林が和歌山の豊かな海を育んでいることから、両館は紀の川水系流域の合同調査などを行ってきた。そうした関連を知ってもらおうと、森と水の源流館で和歌山県立自然博物館の学芸員の徳意分野を紹介するシリーズ企画を3月まで開催することになり、今回はその第一弾。

会場では、ちりめんじゃこがプラスチック容器に詰められて設置され、虫眼鏡でチリメンモンを探検することができ、また、イカやタコ、エビ、スマメダイやサバワグ、タツノオトシゴなどのチリモンも展示されている。

森と水の源流館の企画調査班主筆の古山晴さんは「森林で作られた栄養が川に注ぎ、川の水が田畑や生活用水などで適切に使用されることを海を育むことを知ってもらいたい」と話している。今後、シリーズ企画では「和歌山のへび」や「紀の川の魚類」を順次取り上げる予定。

毎週水曜と28日～1月3日は休館。大人400円、小中学生200円。問い合わせは森と水の源流館（0746・52・0888）。

# 小学生、川上で希少キノコ発見

## 3月31日まで アカイカタケ展示

森と水の源流館で



川上村の小学生が発見したアカイカタケの標本。18日、川上村の森と水の源流館

## 同館初の標本化に成功

川上村が保全する吉野川源流の原生林「水源地の森」で昨年11月、村の小学生が発見した珍しいキノコ「アカイカタケ」の標本が、同村の環境教育施設「森と水の源流館」で展示されている。3月31日まで。

昨年11月5日、総合学習で水源地の森を訪れた村立かわかみ源流学園の4年生が「ヒガンバナみたいな変なものがある」と声を上げた。足下で長さ約3・5センチの軸から5、10センチの細く赤い菌を放射状に伸ばしたその菌類はアカイカタケ。虫を寄せ寄せて胞子を飛ばせるスポンジタケの仲間、周囲には特有の悪臭が漂っていた。

案内していた源流館職員古山晴さん（43）によると、アカイカタケは悪臭に集まるハエなどに食われて、白間ぼろで腐れてしまうため、発見例は少ない。国内各地の林縁部ならみられるが、出現時期ははっきりせず数年に1度という。

2002年開館の源流館に村内のアカイカタケが持ち込まれたのは3例目だが、

「自然を見つめる目が村の小学生らしくてさすがだなと思いました」と古山さん。子どもにもわかりやすい解説を学習冊子にまとめるなど「展示を工夫した」。

「標本が時間とともに退色するので早めに見に来て」と話している。

このほか館内では林業の営みを紹介する企画展「歴史の証人」（3月2日）や和歌山県立自然博物館の出展展示「紀伊半島のへびたち」（3月1日）も行われている。

午前9時～午後5時。水曜休み。入館料は高校生以上400円、小中学生200円。問い合わせは源流館。電話0746（53）0888。



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平

電話 0746-52-0888 FAX0746-52-0388

<https://www.genryuu.or.jp> e-mail:[morimizu@genryuu.or.jp](mailto:morimizu@genryuu.or.jp)